

# 1 児童実態調査の結果

本年度の研究は、自ら発信する活動（コミュニケーション活動）に関わって、“児童のどんな力が欠けているのか”を探り、その欠けている部分を補うための研究をしていくことを目的に進めるといふことで年度当初に確認をした。そこで、その“欠けている力”を探るために、「児童実態調査」を実施した。

「児童実態調査」の内容・項目は、県教委から出されている『豊かな言語環境作りプログラム』のアンケートを参考に、本校の研究内容や児童の実態に合うように作りかえたものである。

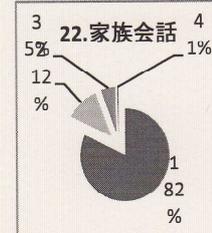
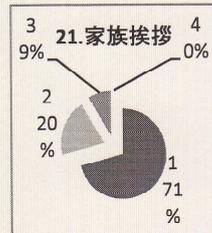
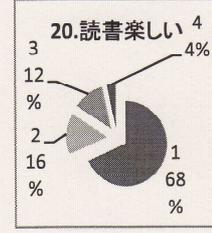
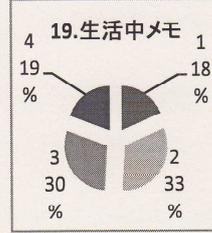
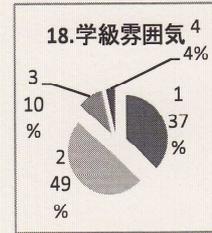
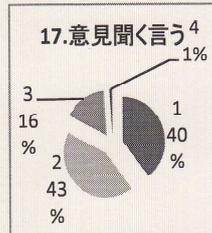
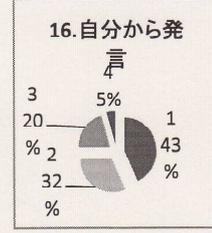
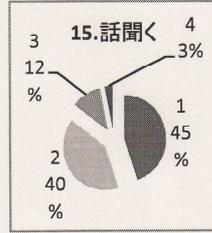
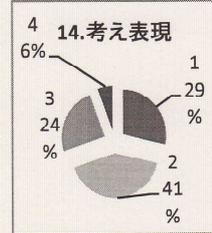
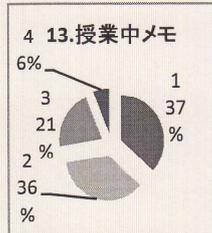
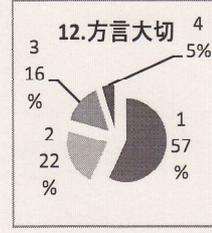
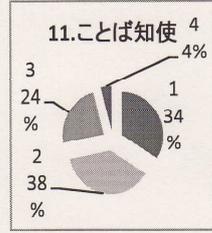
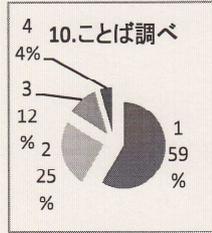
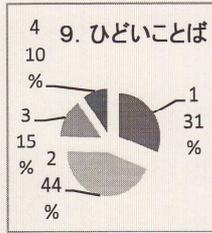
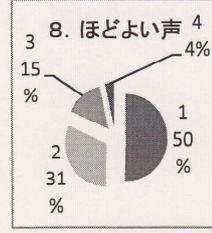
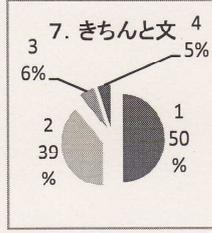
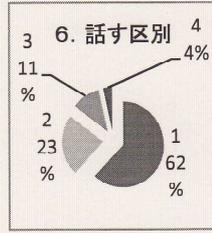
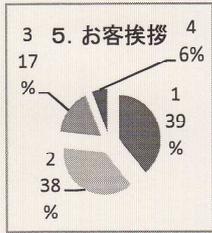
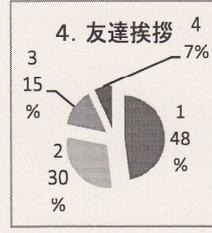
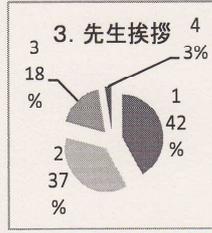
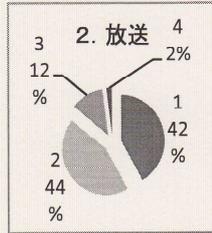
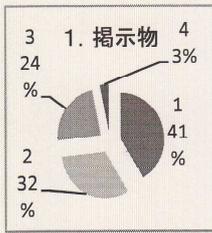
「児童実態調査」の結果は以下の通りである。

## 学習・生活アンケート集計結果(全校)

このアンケートは、みなさんの学習や生活の様子を知るためのものです。  
あてはまる記号(A・B・C・D)に○をつけてください。

[A=そうです、B=ほぼそうです、C=あまりそうではないです、D=そうではないです]

質問	A	B	C	D
1 わたしは、掲示物をよく見る。	77	59	44	6
2 わたしは、校内放送が流れると、よく聞く。	82	86	24	4
3 わたしは、学校で先生によくあいさつをする。	82	73	36	5
4 わたしは、学校で友達によくあいさつをする。	94	59	29	14
5 わたしは、学校にみえるお客さんにもよくあいさつをしている。	77	74	34	12
6 わたしは、先生と話すときと、友達と話すときと、学校外の人と話すときとで、区別してことばを使っている。	122	45	22	7
7 わたしは、たとえば水がほしいときに、「水！」とひとこと言うのではなく、「水をください。」のようにきちんとした文で言っている。	98	76	12	10
8 わたしは、場所にあわせて、ほどよい声の大きさと話している。	99	61	29	7
9 わたしは、相手を傷つけるような、ひどいことばは使っていない。	61	87	29	19
10 わたしは、わからないことばがあったとき、人に聞いたり、辞書をひいて調べたりするようにしている。	115	49	23	9
11 わたしは、いろいろなことばを知っていて、それを使っている。	67	74	47	8
12 わたしは、方言もたいせつなことばだと思っている。	77	30	21	7
13 わたしは、授業中にノートやメモをとって、学習に役立てようとしている。	72	70	42	12
14 わたしは、文章を読んだり図表を見たりして、その内容を理解し、自分の考えを表現することができる。	56	81	48	11
15 わたしは、人の話をしっかりと聞いている。	88	79	23	6
16 わたしは、授業中に、自分から発言している。	85	62	40	9
17 わたしは、話し合うときに、人の意見をしっかりと聞いて、自分の意見もしっかり言っている。	78	84	32	2
18 わたしの学級には、何でも言い合えるあたたかい雰囲気がある。	74	99	20	7
19 わたしは、普段の生活のなかで、話したいことや、書きたいことや、気づいたことや、わかったことなどを何かにメモしている。	36	64	58	38
20 わたしは、読書をするのが楽しい。	134	31	24	7
21 わたしは、家族とよくあいさつをする。	139	40	17	0
22 わたしは、家族とよく会話をする。	161	24	10	1



以上の「児童実態調査」の結果をうけ、全体会で考察を行った。

○全校と各学年を比較しても、各項目での割合はさほど違いがない。

○ほぼ全項目において、A (そうです)、B (ほぼそうです) と答えた児童の割合が7割～8割に達している。

○特に、A (そうです) と答えた児童の割合が高かった項目は、

「6. 先生、友達、学校外の人と話すときことばを区別している。」

「10. わからないことばは、人に聞いたり、調べたりしている。」

「12. 方言も大切なことばと思っている。」

「20. 読書は楽しい。」

「21. 家族とあいさつをする。」

「22. 家族と会話をする。」

の6項目。

→児童が話す言葉を考えながら、様々な人々と会話をしている様子が見えてくる。

→仲田先生を中心に図書委員会や朗読ボランティアなどが様々な活動を工夫して行っていることが児童へ好影響を与えていることもわかる。

○C (あまりそうではないです)、D (そうではないです) と答えた児童の割合が比較的高かった(1/4強)項目は、

「1. 掲示物をよくみる。」

「9. 相手を傷つけるようなひどいことばは使わない。」

「11. いろいろなことばを知っていて、使っている。」

「13. 授業中にメモをとって、学習に役立てる。」

「14. 文章や図表の内容を理解し、自分の考えを表現できる。」

「16. 授業中に自分から発言する。」

「19. 生活の中で話したいことなどを何かにメモする。」

の7項目。

→掲示物の有効かつ効果的な活用方法を考える必要がありそう。また、児童のことば遣いにも注意を働かせる必要がある。

→読書を楽しんでよくしている、またことばを聞いたり調べたりしているようだが、実際に使うまではしていない。

→児童は、自分で気付いたことなどをメモする習慣がない。

→話し合い活動の中では意見を聞いたり言ったりしているようだが、その他の学習場面では、自分の考えを表現しない?! できない?! 児童が多い。

さらに、「児童実態調査」の結果と教師側から見た児童の実態とを比較して

「しっかり話す」「正しく話す」

「自分の考えを伝える」

「聞いたことや読んだことをもとに自分の考えをもち、相手にわかるように話す」

といったことができていないのは、児童・教師共通の認識であることがわかった。

そこで、今年度の研究は、

## 聞く・話す

力をつけるように指導を工夫していく。

また、校内研の主題やサブテーマにも関わって

## 自ら発信する活動 コミュニケーション

を積極的に仕組んでいく。

という方向へ向かうこととなった。そして、

- ①各学年の発達段階や実態に応じて
- ②教科・領域を問わず
- ③今年度中に一人一実践を行う

ということになった。